

白川静のことば
《5》



金子都美絵・画

歌は、おそらく「訴ふ」という語と語源的に関係がある。
 文字の起源的な意味からいえば、歌は神を責めて呵し、
 神に訴えるものであった。歌という字の基本的な要素
 は可であり、歌は古くは訶とかかれた。

春秋期の青銅器の銘には、歌の意にその字が用いられて
 いる。可は木の柯の形と口とから成る字である。
 口は古くは口とかかれ、それは「のりと」を入れる器
 の形である。

その中ののりとを納めた形が曰であり、曰の古い字形
 には、その上部をすこし開いた形にするものがある。
 曰は閱、のりとを読むこと、また神託を告ることをい
 う。神に祈るとき、古代の人びとはのりとを奏したが、
 神にその祈りを聞き入れさせるためには、今の圧力団
 体のように、多少は畏迫にわたる行為も必要であった。

『詩経 - 中国の古代歌謡』中ハム新書 p15~16)

